

協同学習の理念と技法を学ぶ ～学生の変化・成長を促す授業づくり～

安永悟

(久留米大学文学部心理学研究科)

Gehertz 三隅友子

(徳島大学国際センター)

1. はじめに

大学が目指す教育の目標とその現状の乖離が言われて久しい。大学教員は日々各専門分野の研究にいそしみ、そこから得られた知見をいかに効果的に学生に伝えられるか、そして学生が得たものを彼ら自身がさらにまた発展させられるかが要求されている。我々が教育対象とする学生の多様な現状を鑑み、本当に必要としている、すなわちこれからの社会を担う人材としての力をいかに獲得させるかを実践的に学ぶ必要があるだろう。その方法としての「協同学習」を参加者とともに理解し、それぞれの授業実践の中でどのように活かしていくのかを考える場として、本カンファレンス内にワークショップを設けた。その理念と技法を体験的に共に学ぶことによって教師の教育力を高めることを目的とする。

2. 協同学習を支える教育観

教育者の頭の中の知識をそっくりそのまま学習者へ移入するという「注入主義（教え込み教育）」とは違って、次の二つの教育観を柱とする。それは「関わりあう人が互いに協同すること」と、「主体的に関わり能動的に学ぶこと」である。

前者は、学習が個人的なものではなく社会的なものであることを示唆しており、後者は「学び」が人間の無限の能力と可能性を引き出すという立場を表している。その教育観（学習観）に基づく教育を実現するための中核的な学習指導法を「協同学習」とする。

3. 協同学習と対話

国際化が進む社会においては「対話」が必要と

されているのは言うまでもない。多様な人々で構成される社会でのコミュニケーショントレーニングとして目的と方法が合致しているのが協同学習であるといえる。

4. 大学での実現に向けて

前述の認識をもとに我々自身が協同学習の理念と技法をまさに協同学習を通して学ぶことにより、授業を改善し、何よりも学生の変化と成長を促すことを教師自らが連携を持って取り組みたい。教科、専門科目を越えて、よりよい教育活動のために、授業を行う全ての教師に参加をよびかけるものである。

参考文献

- ・「協同学習の技法～大学教育の手引き～」(2009)E. バークレイ他(著) 安永悟(監訳) ナカニシヤ出版
- ・「大学授業を活性化する方法」(2004)杉江他 玉川大学出版部
- ・「学生参加型の大学授業～協同学習への実践ガイド～」J. ジョンソン他(著) 関田一彦(監訳) 玉川大学出版部

参考 URL <http://jasce.jp/index.html>

- ・「日本協同教育学会 JASCE : Japan Association for the Study of Cooperation in Education」
互惠的な信頼関係を基盤とした協同に基づく教育・学習環境を創造・普及することを目的とする。

<資料>

ワークショップを進めるための基本理念

(参考文献「協同学習の技法」第1章より)

1 協同学習とはなにか

協同学習は仲間と共有した学習目標を達成するためにペアもしくは小グループで一緒に学ぶことである。単に複数の人に関わるという意味ではなく、「意図的に計画され、実践されている学習活動」を「協同学習」と定義する。さらに教師による「意図的な計画」と学習者が「共に活動すること」そして教師と学習者にとって共有された授業目標が達成される「意味ある学習」となっているかが特徴となる。

2 協同学習と協調学習の違いはなにか

それぞれの目標が、協同学習 (cooperative learning) は、仲良く協力して共に学び、お互いに支え合いながら解答を捜し求めることであり、協調学習 (collaborative learning) は、意見をはっきり述べられる自律的で思慮深い人を育てることである。この二つは話し合いという形式をとりながらも相反する目標となる場合もある。

3 効果的な学習グループの特徴とはなにか

協同学習を実践していると思っている教師自身が、以下の基本原則を照合させて、本当の意味での「協同学習」を進める手立てとできる。

- ①肯定的相互依存 ②促進的相互交流 ③個人の二重の責任
- ④集団作業スキルの促進 ⑤活動の振り返りと改善

4 協同学習の教育原理とはなにか

「学習とは関連付けである」という視点から、神経的結合と認知的結合さらに社会的結合によって、学習が情報を理解し「意味を見出す」ことであり、また知識を固定的なものとなさずに、解釈しなおすことで世界を把握し、理解することである。

5 協同学習が学びをうながし高めるとい証拠はなにか

大学が効果的な教育環境となりうるためには ①学生同士の交流 ②教職員との交流 ③能動的な学習の三つの要素が必要でありまたその効果も実証されている。

6 協同学習はどんな学生に向いているか

ほとんどすべての学生に対して効果的である。特に多様な背景を持つ異質な学生によって経験される、多様な社会文化的な視点を活用することによって、問題点となりがちな多様性が利点へと転換しうる。

7 協同学習によってみんなが幸せになれるか

「協同学習で学んだ学生の方が質の高い推論スキルやコミュニケーションスキルを獲得していた」という知見、そして「教師のための協同学習」が大学内で取り入れられている現状を確認する。

8 結論 協同学習の革新としての協同学習の存在